

1-6 チューブバーナの割れ予兆技術

・燃焼中の金属チューブ(1000℃～)の割れ予兆検出可能な非破壊計測技術

内容	チューブバーナ燃焼中に非破壊検査等を行い、金属チューブが割れる前に予兆検出が可能な計測技術
	金属チューブは高温化で燃焼しており、1年ほどで酸化減肉し割れが発生
	割れ発生箇所のチューブ表面は約1000℃～1200℃程度（推定）
要求事項	24h連続操業している炉が多く、燃焼中に非破壊検査で測定を希望

